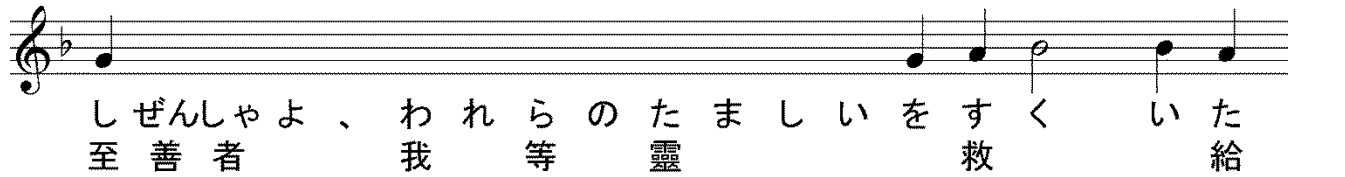
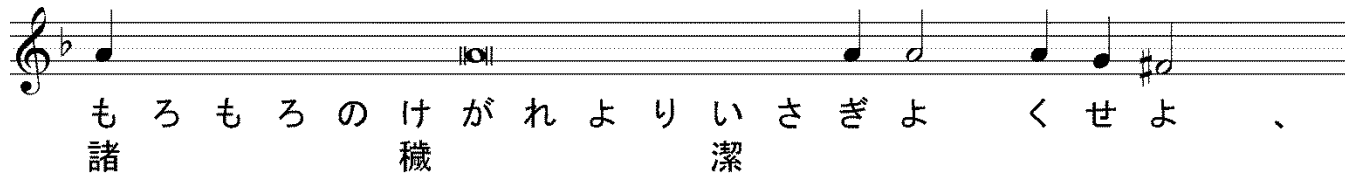
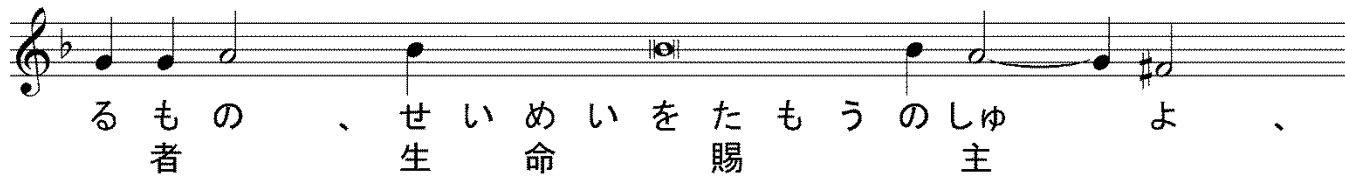
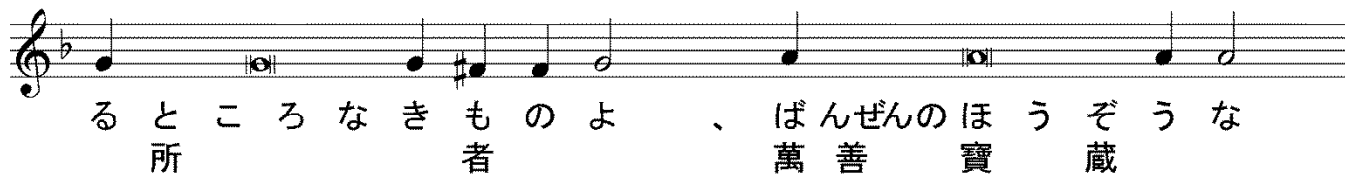
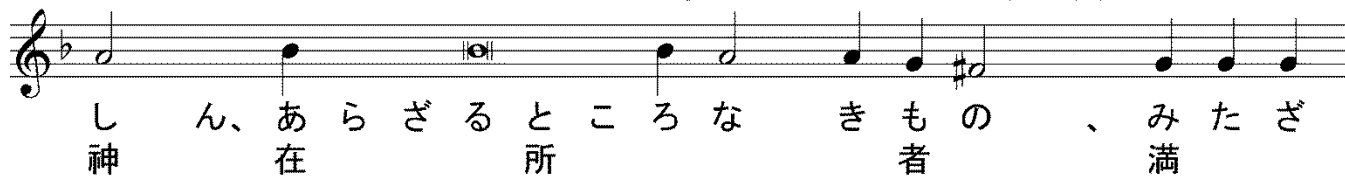
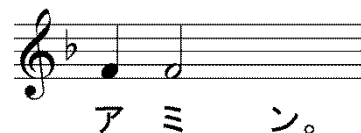


# — 新年感謝祈禱 — (代式祈禱)



代禱) <sup>しゅ</sup>主 イイスス・ハリストス、<sup>かみ こ</sup>神の子よ、<sup>なんぢ しじょう</sup>爾が至淨の母と<sup>はは</sup>諸<sup>しよせいじん</sup>聖人との<sup>きとう より</sup>祈禱に<sup>われら</sup>因て、我等

<sup>あわれ たま</sup>を憐み給え、



誦經) <sup>せい かみ</sup>聖なる神、<sup>せい ゆうき</sup>聖なる勇毅、<sup>せい じょうせい</sup>聖なる常生の者よ、<sup>われら あわれ</sup>我等を憐めよ。

<sup>せい かみ</sup>聖なる神、<sup>せい ゆうき</sup>聖なる勇毅、<sup>せい じょうせい</sup>聖なる常生の者よ、<sup>われら あわれ</sup>我等を憐めよ。

<sup>せい かみ</sup>聖なる神、<sup>せい ゆうき</sup>聖なる勇毅、<sup>せい じょうせい</sup>聖なる常生の者よ、<sup>われら あわれ</sup>我等を憐めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光 榮は父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

しせいさんしゃ われら あわれ しゅ われら つみ いさぎよ しゅさい われら あやまち ゆる  
至聖三者よ、我等を 憐 め。主よ、我等の罪を 潔 くせよ。主 宰よ、我等の 愆 を赦

せい もの のぞ われら やまい いや たま ことごと なんぢ な よ  
せ。聖なる者よ、臨みて我等の病 を癒し給え。 悉 く爾 の名に因る。

しゅ あわれ しゅ あわれ しゅ あわれ  
主、憐 めよ。主、憐 めよ。主、憐 めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光 榮は父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

てん いま われら ちち ねがわく なんぢ な せい なんぢ くに きた なんぢ むね てん  
天に在す我等の父よ、 願 は爾 の名は聖とせられ、爾 の国は來り、爾 の旨は天

おこな ごと ち おこな わ にちよう かに こんにちわれら あた たま われら  
に 行 わるるが如く、地にも 行 われん。我が日用の糧を今日我等に與え給え。我等に

おいめ もの われらゆる ごと われら おいめ ゆる たま われら いざない みちび なおわれら  
債 ある者を我等免すが如く、我等の 債 を免し給え。我等を 誘 に導かず、猶我等

きょうあく すく たま  
を凶 惡より救い給え。

しゅ かみ こ なんぢ しじょう はは しょせいじん きとう より われら  
代禱) 主 イイスス・ハリストス、神の子よ、 爾 が至 淨 の母と諸 聖 人との祈禱に因て、我等

あわれ たま  
を 憐 め給え、



そのなみ こえ およ しょみん みだれ しづ もの われら き たま ち はて お もの なんぢ  
其波の聲、及び諸民の亂を鎮むる者よ、我等に聴き給え。地の極に居る者は爾の

きゅうちよう おそ なんぢ あさゆう おこ なんぢ さんえい なんぢち のぞ そのかわき  
休徴を畏れん。爾は朝夕を起して爾を讚榮せしめん。爾地に臨みて、其渴を

とど ゆたか これ と かみ ながれ みづみ なんぢこくもつ そな けだしか ごと これ  
止め、豊に之を富ましむ、神の流には水盈ち、爾穀物を備う、蓋此くの如く之

つく なんぢそのたみぞ の そのつちくれ たいら あめ したたり もつ これ やわ しゆくふく  
を作れり、爾其獣に飲ませ、其塊を平げ、雨の滴を以て之を柔らげ、祝福

め いだ なんぢ おんたく もつ とし こうむ なんぢ あゆみ あぶらしたた すなわちのべ  
して芽を出さしむ。爾の恩澤を以て年に冠らせ、爾の歩には膏滴る、昂郊邊

まきば したた おか よろこび お くさはら けもの むれ き たに こくもつ おお よろこ  
の牧場に滴り、丘は喜を帯ぶ、草原は獣の群を衣、谷は穀物にて覆われ、歡び

よ うた  
呼びて歌う。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、アミン。

ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、神よ光榮は爾に歸す。

ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、神よ光榮は爾に歸す。

ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、神よ光榮は爾に歸す。

### 【 大聯禱 】

われらあんわ しゅ いの  
代禱) 我等安和にして主に禱らん、



しゅ あ わ れ め よ 。  
主 憐

うえ くだ あんわ われら たましい すくい ため しゅ いの  
代禱) 上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



しゅ あ わ れ め よ 。  
主 憐

ぜんせかい あんわ かみ せい しょきょうかい けんりつ およ しゅうじん ごういつ ため しゅ いの  
代禱) 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



しゅ あ わ れ め よ 。  
主 憐

こ せいどう およ しん つつしみ かみ おそ こころ もつ ここ きた もの ため しゅ いの  
代禱) 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 教 會 を 司 る尊貴なる我等の全 日本 の 府 主 教ダニエル、尊貴なる我等の仙 台 の 大

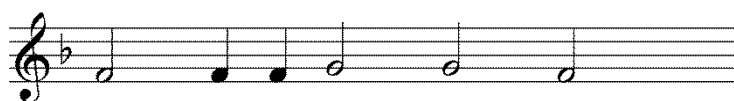
主 教セラフィム、司祭の尊 品、ハリストスに因る輔 祭 職、 悉 くの 教 衆、及び

衆 人 の 爲 に 主 に 禱 らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 我 國 の 天 皇、及び 國 を 司 る 者 の 爲 に 主 に 禱 らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 此 の 都 邑 と 凡 の 都 邑 と 地 方、及び 信 を 以 て 此 の 中 に 居 る 者 の 爲 に 主 に 禱 らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 慈 憐 を 以 て 我 等 不 當 なる 僕 婢 の 今 の 感 謝 と 祈 禱 と を 其 天 上 の 祭 臺 に 受 け、宏 恩 なる

に 因 り て 我 等 を 憐 む が 爲 に 主 に 禱 らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 善 く 我 等 の 禱 を 納 れ て、我 等 と 其 衆 人 と に 去 年 の 中 に 犯 し し 自 由 と 不 自 由 と の

悉 くの 罪 を 赦 すが 爲 に 主 に 禱 らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 仁 愛 の 恩 寵 を 以 て、今 年 の 始 と 其 日 を 送 る こと と に 福 を 降 し、天 下 の 泰 平、気 候

の 順 和 なる こと、及び 我 等 に 罪 過 なく、壮 健 に 満 足 して 生 を 度 る こと を 賜 わ る が 爲

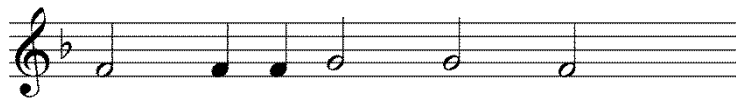
に 主 に 禱 らん、





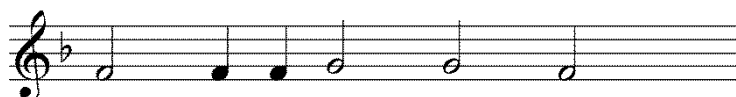
しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 我<sup>われら</sup>等<sup>つみ</sup>の罪<sup>よ</sup>に依<sup>およ</sup>りて、凡<sup>ぎ</sup>そ義<sup>かな</sup>に稱<sup>われら</sup>いて我<sup>のぞ</sup>等に臨<sup>いかり</sup>む怒<sup>や</sup>を遏<sup>ため</sup>むるが爲<sup>しゅ</sup>に主<sup>いの</sup>に禱<sup>らん</sup>らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 凡<sup>およ</sup>そ靈<sup>たましい</sup>を害<sup>がい</sup>する怒<sup>よく</sup>と敗<sup>やぶ</sup>れたる風<sup>ふうぞく</sup>俗<sup>われら</sup>とを我<sup>とお</sup>等<sup>かみ</sup>より遠<sup>おそ</sup>ざげ、神<sup>おそれ</sup>を畏<sup>わ</sup>るる畏<sup>わ</sup>を我<sup>わ</sup>が  
心<sup>こころ</sup>に納<sup>い</sup>れて、其<sup>その</sup>誠<sup>いましめ</sup>を行<sup>おこな</sup>わしむるが爲<sup>ため</sup>に主<sup>しゅ</sup>に禱<sup>いの</sup>らん、



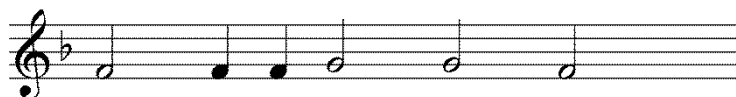
しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 正<sup>ただ</sup>しき靈<sup>たましい</sup>を我<sup>われら</sup>等<sup>うち</sup>の衷<sup>あらた</sup>に改<sup>われら</sup>め、我<sup>われら</sup>等<sup>じゅんせい</sup>を醇<sup>おしえ</sup>正<sup>かた</sup>の教<sup>ぜんじ</sup>に固<sup>おこな</sup>め、善<sup>その</sup>事<sup>およそ</sup>を行<sup>い</sup>ひ、其<sup>その</sup>凡<sup>およそ</sup>  
の誠<sup>いましめ</sup>を守<sup>まも</sup>るに熱<sup>ねつしん</sup>心<sup>もの</sup>なる者<sup>な</sup>と爲<sup>ため</sup>すが爲<sup>しゅ</sup>に主<sup>いの</sup>に禱<sup>らん</sup>らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 凡<sup>およそ</sup>の異<sup>いたん</sup>端<sup>ぎきょう</sup>と歧<sup>ほろぼ</sup>教<sup>あまね</sup>とを滅<sup>ところ</sup>し、遍<sup>じゅんせい</sup>き處<sup>おしえ</sup>に醇<sup>けいけん</sup>正<sup>う</sup>の教<sup>つ</sup>と敬<sup>およ</sup>虔<sup>せい</sup>とを植<sup>せい</sup>え附<sup>せい</sup>け、凡<sup>せい</sup>そ正<sup>せい</sup>  
教<sup>きょう</sup>に背<sup>そむ</sup>きし者<sup>もの</sup>を眞<sup>しんり</sup>理<sup>し</sup>を知る<sup>てん</sup>に轉<sup>かれら</sup>ぜしめて、彼<sup>せい</sup>等<sup>せい</sup>を聖<sup>きょうかい</sup>なる教<sup>あわ</sup>會<sup>ため</sup>に合<sup>しゅ</sup>すが爲<sup>いの</sup>に主<sup>いの</sup>に禱<sup>らん</sup>らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 聖<sup>せい</sup>なる教<sup>きょうかい</sup>會<sup>われら</sup>と我<sup>しゅうじん</sup>等<sup>およそ</sup>衆<sup>うれい</sup>人<sup>わがわい</sup>とを凡<sup>いかり</sup>の憂<sup>あやうき</sup>愁<sup>およ</sup>と、禍<sup>ことごと</sup>害<sup>ことごと</sup>と、忿<sup>ことごと</sup>怒<sup>ことごと</sup>と、危<sup>ことごと</sup>難<sup>ことごと</sup>、及<sup>ことごと</sup>び悉<sup>ことごと</sup>く  
の見<sup>み</sup>ゆると見<sup>み</sup>えざる敵<sup>てき</sup>より脱<sup>のが</sup>れしめ、其<sup>その</sup>信<sup>しん</sup>者<sup>じゃ</sup>に壯<sup>そうけん</sup>健<sup>ちようじゅ</sup>と長<sup>へいあん</sup>壽<sup>たま</sup>と、平<sup>しよてん</sup>安<sup>しよてん</sup>とを賜<sup>たま</sup>い、諸<sup>しよてん</sup>天<sup>しよてん</sup>



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 神<sup>かみ</sup>よ、爾<sup>なんぢ</sup>の恩<sup>おん</sup>寵<sup>ちよう</sup>を以<sup>もつ</sup>て、我<sup>われら</sup>等<sup>たす</sup>を佑<sup>すく</sup>け救<sup>あわれ</sup>い憐<sup>まも</sup>み護<sup>まも</sup>れよ、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

代禱) 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

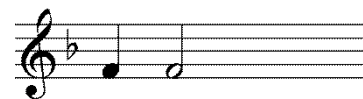
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ な んぢ に 。  
主 爾

代禱) 主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等

を憐み給え、



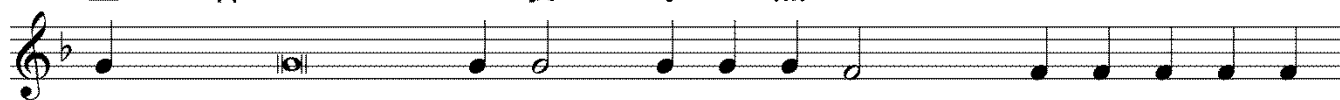
ア ミ ン。

【 主は神なり 第4調 】

代禱) 主は神なり、我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、



しゅ は か み な り 、 わ れ ら を て ら せ り 、  
主 神 我 等 照



しゅ の な に よ っ て き た る も の は 、 あ が め ほ め  
主 名 依 来 者 崇 讚



ら る 。

代禱) 主を讚榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世世にあればなり。



しゅ は か み な り 、 わ れ ら を て ら せ り 、  
主 神 我 等 照

しゆのなによつてきたるものは、あがめほめ  
主名依來者 崇 讚

らる。

代禱) <sup>かれらわれ</sup> <sup>かこ</sup> <sup>われ</sup> <sup>めぐ</sup> <sup>われしゆ</sup> <sup>な</sup> <sup>もつ</sup> <sup>これ</sup> <sup>やぶ</sup>  
彼等我を圍み、我を環りたれども、我主の名を以て之を敗れり、

しゆはかみなり、われらをてらせり、  
主 神 我等 照

しゆのなによつてきたるものは、あがめほめ  
主名依來者 崇 讚

らる。

代禱) <sup>われし</sup> <sup>なおい</sup> <sup>しゆ</sup> <sup>しわざ</sup> <sup>つた</sup>  
我死せず、猶生きて主の所爲を傳えん。

しゆはかみなり、われらをてらせり、  
主 神 我等 照

しゆのなによつてきたるものは、あがめほめ  
主名依來者 崇 讚

らる。

代禱) <sup>こうし</sup> <sup>す</sup> <sup>いし</sup> <sup>おくぐう</sup> <sup>しゆせき</sup> <sup>な</sup> <sup>こ</sup> <sup>しゆ</sup> <sup>な</sup> <sup>ところ</sup> <sup>われら</sup> <sup>め</sup> <sup>きい</sup>  
工師が棄てたる石は屋隅の首石と爲れり、此れ主の成す所にして、我等の目に奇異な

りとす。

【 讚詞 第4調 】

しゆよ、われらなんぢのふとうのぼくひたるも  
主 我等 爾 不 當 僕 婢 者



の、なんぢのおおいなるおんをこうむるによ  
 爾大 恩被 因  
 りて、かんしゃのこころをいだきなんぢをとうと  
 感謝心抱 爾尊  
 みうたいほめあげかんしゃ し、なんぢのじん  
 歌 讃 揚 感謝 爾 仁  
 じをあがめぼくのつつしみかつあいをもってなん  
 慈 崇 僕 慎 且 愛 以 爾  
 ぢによぶ、われらにおんをたもうきゆうせい  
 呼 我 等 恩 賜 救 世  
 しゅよ、こうえいはなんぢのものなりと。  
 主 光 榮 爾

【 讃詞 第3調 】

こうえいはちちとことせいしんにきす。  
 光 榮 父 子 聖 神 歸  
 しゅさいよ、われらいたってあたらざるぼ  
 主宰 我 等 至 當 僕  
 くひ、なんぢのおんとたまものとをこうむ  
 婢 爾 恩 賜 物 被  
 りて、ねっしんをもってなんぢにはしりつき  
 熱心以 爾 趨 附  
 ちかからにおうじてかんしゃをたてまつり、なんぢ  
 能力 応 感謝 獻 爾

おんをた も うしゅと ぞ う ぶ つしゅた る を ほ め あ げ て  
 恩 賜 主 造 物 主 讃 揚  
 よ ぶ 、 い た っ て ひ ろ き め ぐ み の か み  
 呼 至 広 恵 神  
 よ 、 こ う え い は な ん ぢ の も の な り と 。  
 光 榮 爾

【 新年の讃詞 第2調 】

い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。  
 今 何 時 世 世  
 と き と と し と を お の れ の け ん な い に お き た ま  
 時 歳 己 権 内 置 給  
 い し ば ん ぶ つ の ぞ う せ い しゅ よ 、 な ん ぢ の  
 萬 物 造 成 主 爾  
 お ん た く を も っ て と し に こ う む ら せ 、  
 恩 澤 以 年 冠  
 し ょ う し ん ぢ よ の き と う に よ り て 、 わ れ ら を へ 平  
 生 神 女 祈 禱 因 我 等  
 い あ ん に ま も り て す く い た ま え 。  
 安 守 救 給

【 提綱 (プロキメン) 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) プロキメン、<sup>わ しゅ おおい</sup> 吾が主は大なり、<sup>そのちから またおおい</sup> 其力も亦大なり、<sup>そのちえ はか がた</sup> 其智慧は測り難し、

わ が しゅ は お お い な り 、 そ の ち か ら も ま た お お  
 吾 主 大 其 力 亦 大

い な り、 そ の ち え は は か り が  
其 智 慧 は 測 り が 難  
た し。

誦經) <sup>しゅ ほ あ</sup>主を讃め揚げよ、<sup>けだしわれら かみ うた ぜん</sup>蓋我等の神に歌うは善なり、<sup>けだしこ たのし こと</sup>蓋是れ樂しき事なり、

わ が しゅ は お お い な り、 そ の ち か ら も ま た お お  
吾 主 大 其 力 亦 大  
い な り、 そ の ち え は は か り が  
其 智 慧 は 測 り が 難  
た し。

誦經) <sup>わ しゅ おおい</sup>吾が主は大なり、<sup>そのちから またおおい</sup>其力も亦大なり、

そ の ち え は は か り が た し。  
其 智 慧 は 測 り 難

【 使徒經 (ティモフェイ前書2章1~6節) 】

代禱) <sup>えいち</sup>睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup>聖使徒パウエルがティモフェイに達する書<sup>たつ</sup>の讀<sup>しよ よみ</sup>、

代禱) <sup>つつし</sup>謹みて聽くべし、

誦經) <sup>こ</sup>子ティモフェイよ、<sup>われおよそ こと さき</sup>我凡の事に先だちて勸む、<sup>すす</sup>衆人の爲、<sup>しゅうじん ため ていおう およ およ けん と</sup>帝王、及び凡そ權を操

<sup>もの ため きとう きがん こんきゅう かんしゃ な</sup>る者の爲に、<sup>われら およそ けいけん せいけつ</sup>祈禱、祈願、懇求、感謝を爲さんことを、我等が凡の敬虔と聖潔とを

<sup>もつ へいあん おんせい いのち わた ため けだしこ われら きゅうしゅかみ まえ ぜん</sup>以て平安にし、穩靜なる生を度らん爲なり、蓋此れ我等の救主神の前に善にし

<sup>い こと かれ しゅうじん すくい え およ しんじつ し いた ほつ けだし</sup>て納れらるる事なり、彼は衆人が救を得、及び眞實を知るに至らんことを欲す。蓋

<sup>かみ いつ かみ ひと あいだ ちゅうほしゃ またいつ すなわちひと</sup>神は一なり、神と人との間には中保者も亦一なり、乃人ハリストス イイス、

<sup>しゅうじん ため おのれ あた もの かれ そんけい こうえい よよ き</sup>衆人の爲に己を與えし者なり。彼に尊敬と光榮とは世に歸す、アミン。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) わたしの子テモテよ、まず第一に勤める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈と、とりなしと、感謝とをささげなさい。それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。これは、わたしたちの救主である神のみまえに良いことであり、また、みこころにかなうことである。神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。彼は、すべての人のあがないとしてご自身をささげられたが、それは、定められた時になされたあかしにほかならない。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 】

代禱<sup>えいち</sup> 睿智、

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

誦經<sup>かみ ほめうた おい なんぢ ぞく</sup> 神よ、讃頌はシオンに於て爾に屬す、

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

誦經<sup>しゅ なんぢ おんたく もつ とし こうむ</sup> 主よ、爾は恩澤を以て年に冠らす、

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 4 章 16~22 節 】

代禱<sup>えいち</sup> 睿智、

代禱<sup>でん せいふくいんけい よみ</sup> ルカ傳の聖福音經の讀、



代禱) <sup>かみ なんぢ おおい あわれみ よ われら あわれ なんぢ いの き い あわれ</sup> 神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

代禱) <sup>またきょうかい つかさど そんなき われら ぜんにつぼん ふしゅきょう そんなき せんだい</sup> 又教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教ダニイル、尊貴なる仙台の

<sup>しゅきょう およ お ことごと われら けいてい ため いの</sup> 主教セラフィム、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

代禱) <sup>しゅさい しゅわれら きゅうせいしゅ われらふう ぼくひ おそ おのの なんぢ ゆたか そのしょぼくひ</sup> 主宰、主我等の救世主よ、我等不當の奴婢として、畏れ戦き、爾が豊に其諸奴婢に

<sup>そそ しょおん ため なんぢ じんじ かんしゃ ふふく なんぢ かみ かな きんよう たてまつ</sup> 注ぎたる諸恩の爲に爾の仁慈に感謝して俯伏し、爾に神に適いたる讚揚を奉り、

<sup>しょうかん じょう もつ よ なんぢ しょぼくひ もろもろ わざわい まぬが そのじれん よ つね</sup> 傷感の情を以て呼ぶ、爾の諸奴婢を諸の禍より免しめ、其慈憐なるに因りて常に

<sup>われらしゅうじん よ のぞみ かな たま ねっしん なんぢ いの き い あわれ</sup> 我等衆人の善き望を適え給え、熱心にして爾に禱る聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

代禱) <sup>なんぢ じんじ もつ いまきた とし はじめ しゅくふく われら うち およそ ふわ ふせいり</sup> 爾の仁慈を以て今來りし年の始に祝福し、我等の内に凡の不和と、不整理と、

<sup>ふんそう おさ われら わへい けんご いつわり あい ただ せいり とくこう どせい</sup> 紛争とを治め、我等に和平と、堅固にして偽なき愛と、正しき整理と、徳行の度生

<sup>たま しぜん しゅ なんぢ いの き い あわれ</sup> とを賜わんことを、至善なる主よ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

代禱) <sup>きよねん うち あ われら かぞ がた ふほう あくじ おも わ おこない よ われら</sup> 去年の中に有りし我等の數え難き不法と惡事とを憶わず、我が行に由りて我等に

<sup>むく じんあい こうおん もつ われら かえりみ じれん しゅ なんぢ いの き</sup> 報いずして、仁愛と宏恩とを以て我等を顧ることを、慈憐なる主よ、爾に禱る聆き

<sup>い あわれ</sup> 納れて憐めよ、

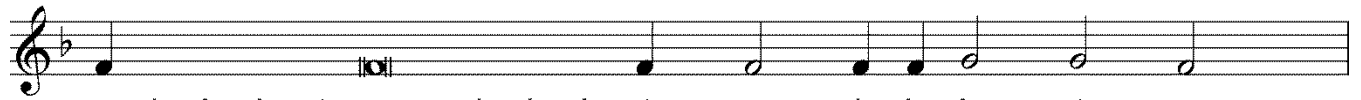


しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

代禱) <sup>とき かな はや またおそ あめ ほうねん つゆ おんせい じゅんわ かせ あた ひ おんだん</sup> 時に合いたる早く又晚き雨、豊稔の露、隱靜にして順和なる風を與え、日の温暖



かがや こうおん しゅ なんぢ いの き い あわれ  
を輝かすことを、宏恩なる主よ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

代禱) なんぢ せい きょうかい きおく これ つよ これ かた これ ひろ これ へいわ  
爾の聖なる教會を記憶して、之を強くし、之を固くし、之を弘め、之を平和にし、  
これ ちごく もん なや み み しよてき ことごと あくぼう やぶ もの  
之を地獄の門に惱まされず、見ゆると見えざる諸敵の悉くの悪謀に破られざる者とし

よよ まも ぜんのう しゅさい なんぢ いの き い あわれ  
て世に護らんことを、全能なる主宰よ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

代禱) およ いほう くらやみ ほろぼ いま なんぢ し しよみん まこと ふくいんけい ひかり てら  
凡そ異邦の幽暗を滅して、未だ爾を知らざる諸民を眞の福音經の光にて照さ

んことを、大有能の主よ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、

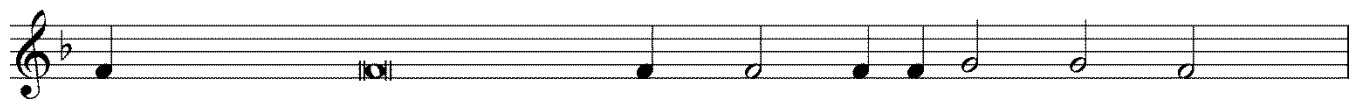


しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

代禱) われら こ きた とし わ いのち ことごと ひ おい ききん えきびょう ちしん すいなん  
我等に此の來りし年と、我が生命の悉くの日に於て、饑饉・疫病・地震・水難・

かなん ひょうがい けんなん がいこう ないらんおよ し まね しょうがい およそ うれい あやうき まぬか  
火難・電害・劍難・外攻・内亂及び死を招く諸害と、凡の憂愁と、危難とを免

れしめんことを、慈愛なる主よ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

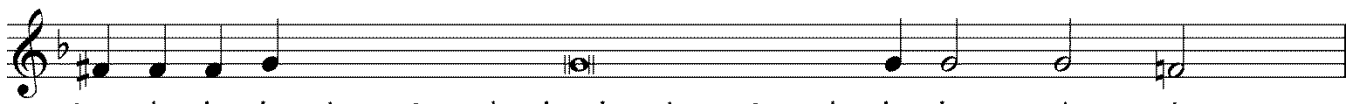
代禱) かみ わ きゆうせいしゅ ち しきよく とお うみ おもの たのみ われら き たま しゅさい  
神、我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃よ、我等に聞き給え、主宰

よ、我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を

あい かみ われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ  
愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世に、



代禱) われらひざ かが またまたしゅ いの  
我等膝を屈めて、復又主に禱らん、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

代禱) 主宰我等の神、生命と不死との源、見ゆると見えざる萬物の造成主、時と歳とを

己の権内に有ち、爾の睿智にて至善なる攝理を以て萬有を宰る主よ、我が生命の

過ぎ去りし日に於て我等に顯しし爾の奇妙なる恩恵の爲に我等爾に感謝す。宏

恩なる主よ、爾に禱る、爾の仁慈を以て今來りし年の始に祝福し、吾國の

天皇を護り、其生命の日を増加して、常に彼等を壯健にし、萬徳に於て彼に進歩を賜

え。爾の衆民にも上より爾の善福、壯健と救贖、及び萬事に於て善き進を

與え給え。爾の聖なる教會、此の城邑と、悉くの城邑と、地方とを諸の禍よ

り脱れしめて、此等に平安と隱靜とを賜え。願くは我等に常に爾無原なる父と、爾

の獨生の子と、至聖にして生命を施す爾の神、一體に於て讚榮せらるる感謝を

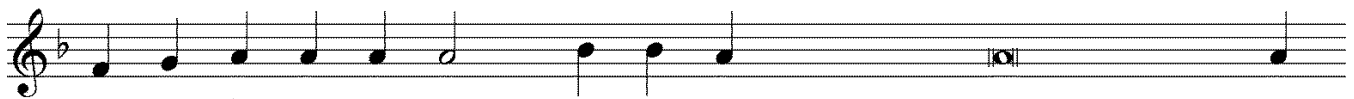
奉り、爾の至聖なる名を讃め歌うを得しめ給わん、

光榮は爾神我等の恩主に世世に歸す、

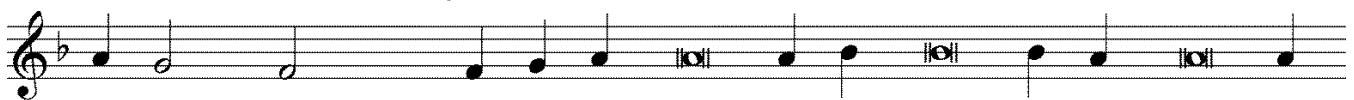


ア ミ ン。

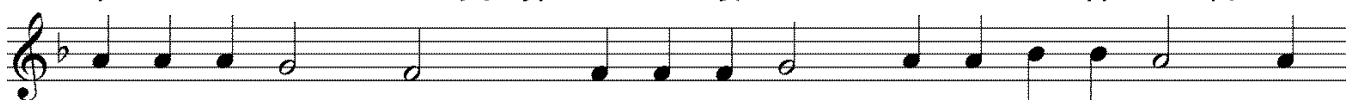
代禱) 睿智、至聖なる生神女よ、我等を救い給え、



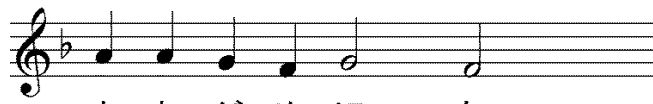
ヘルヴィムよりと うとくセラフィムにならびなく  
尊 並



さかえ、みさおをやぶらずしてかみこと  
榮 貞操 壊 神 言

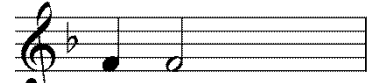


ばをうみし、じつのしょうしんぢよたるなんぢ  
生 實 生 神 女 爾



を あ が め ほ む 。  
崇 讚

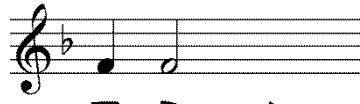
代禱) 光 榮 は 父 と 子 と 聖 神 に 歸 す、 今 も 何 時 も 世 世 に、



ア ミ ン。

代禱) 主 イ イ ス ス ・ ハ リ ス ト ス、 神 の 子 よ、 爾 が 至 淨 の 母 と 諸 聖 人 と の 祈 禱 に 因 て、 我 等

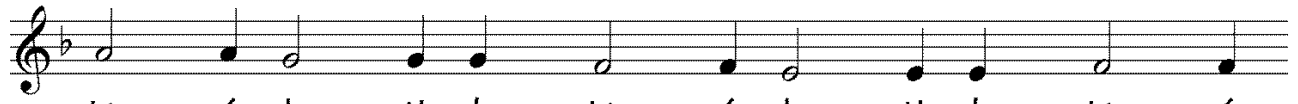
を 憐 め 給 え、



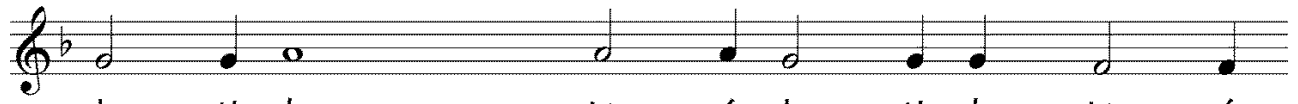
ア ミ ン。

代禱) 主 よ、 今 此 處 に 立 ち て 禱 る 爾 の 諸 僕 婢 に、 萬 福 に して 平 安 な る 度 生、 壯 健 と

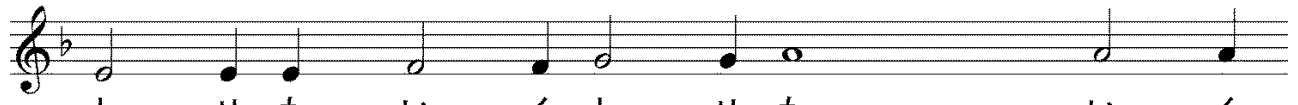
救 贖、 及 び 萬 事 に 於 け る 善 き 進 歩 を 與 え て 幾 歳 に も 護 り 給 え、



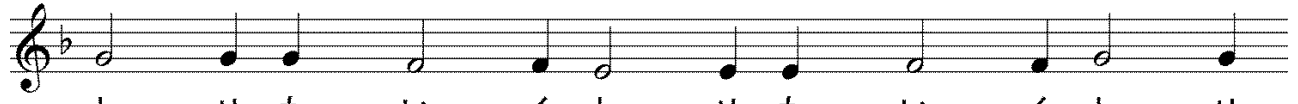
い く と 歳 せ も、 い く と 歳 せ も、 い く



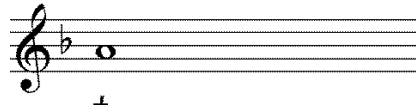
と 歳 せ も 。 い く と 歳 せ も、 い く



と 歳 せ も、 い く と 歳 せ も 。 い く



と 歳 せ も、 い く と 歳 せ も、 い く と 歳



も 。

【 萬 寿 詞 】

か み よ 、 わ が く に の て ん の う、お よ び  
 神 我 國 天 皇 及

く に を つ か さ ど る も の 、 わ れ ら の ふ し ゆ  
 國 司 者 我 等 府 主

き ょ う ダ ニ イ ル、だ い し ゆ き ょ う セ ラ フ ィ ム、お よ び  
 教 大 主 教 及

こ と ご と く の せ い き ょ う の ハ リ ス テ ィ ア ニ ン ら を 、  
 悉 正 教 等

い く と せ に も ま も り た ま え 。  
 幾 歳 護 り 給 え

— 新年感謝祈禱終了 —

※「幾年も」は他のメロディでも可。参拝者に合わせて選択してください。